

教宣 せぶん

情けは人のためならず

東海支部の方からこんな話を聞いたことがあります。

「昔、東海支部で経営からの組織攻撃、いわゆる分裂攻撃があった時の東海経営の不当労働行為は、とてもえげつなかった。特に神戸では、全損保に残った若手組合員の親御さんが勤めている職場へ行き、『お宅のお子さんは全損保という労働組合に所属している。何とかした方がいい』『 という者を師事しているようだが、お宅のお子さんの企業内での将来を考えればやめた方がよい』と露骨に迫った。そんな攻撃の中、私たちは外に出る運動を展開し、東海経営の不当な出方・攻撃を世論に訴えた。その時、私たちの運動・たたかいに一番協力してくれたのが日勤外勤支部の皆さんだった。この話を聞いた時、私の脳裏には日勤外勤支部・神戸分会の活動家の方の顔が何人か浮かびました。同時に、当時の東海経営の全損保攻撃というものは生半可なものではなかったと思いましたが、正義面した東海経営のアイデンティティーに対する新たな怒りがこみ上げてきました。

いま、アドバイザーの佐藤さんをはじめ、東海支部の方々も私たちのたたかいに全面的に協力してくれています。こういったえげつない、狡猾な東海経営とのたたかいは何年も経験しているからこそ、私たちの心情を理解してくれていますし、相手の動きや考え方、たたかいの全体像や本質を、正確に見抜いてくれています。いま私たちがこういう力強い協力を仰げるのも、私たちの先輩たちが全損保という枠組みの中で、東海支部のたたかいを支援してきたからだと思えます。情けとはめぐりめぐって、自らにかえってくるものだをつくづく感じます。

このたたかいの主役はもちろん私たちです。主役である私たちの「演技力」が一番求められますし、当然「セリフ」も多いわけです。最も汗をかかなければならないのは私たちに他なりません。しかしこのたたかいは主役だけで演じ切れるものではありません。脇役で力を発揮する方もいますし、脚本家や演出家の役割を担ってくれる方もいます。美術や照明などの裏方に徹してくれる方も存在します。そういった各々の役割を調和させ、私たちはこのたたかいを力強くすすめていきます。

主役を演じる私たちのDNAには、日勤外勤支部を支えてきた先輩たちのたたかいの足跡がしっかりと組み込まれています。自信と確信をもって、堂々と、狡猾な東海経営とたたかいましょう。